

第1章 総論

1 計画策定の主旨

一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の主旨は、次のとおりである。

本計画は館山市における一般廃棄物（ごみ）処理に係る長期的視点に立った基本方針を明確にするものである。

館山市（以下「本市」という。）では、平成18年9月に一般廃棄物処理基本計画を策定し、住民・事業者・行政の3者が一体となり、3R「リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用」の推進に向けた様々な取り組みを行ってきた。

本市のごみの排出量は、やや減少傾向であり、これは人口の減少によるものばかりではなく、近年の社会経済情勢や大量生産、大量消費を基調とする社会からの脱却を図る動きによるものと考えられるが、収集費や処理経費が削減されるほどの減量とはなっていない。また、一方では、天然資源の枯渇や地球温暖化など、地球規模での環境問題も生じている。

更に本市の中間処理施設（焼却施設）は、稼働開始後27年を経過しており、老朽化が進んでいるため、更新が必要な時期となっている。

国においては、「環境基本法」や「循環型社会形成推進基本法」の制定をはじめ、「資源の有効な利用の促進に関する法律」（以下「資源有効利用促進法」という。）、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）等、循環型社会の実現に向けた様々な法律の整備が進められている。

また、「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針（平成13年環境省告示第34号）」が平成17年5月に改正され、一般廃棄物処理の有料化の推進、廃プラスチック類の熱回収、災害時における廃棄物処理体制の整備の必要性などが新たに示されている。

さらに、循環型社会形成推進基本法に基づき策定された循環型社会形成推進基本計画（平成20年3月25日閣議決定）において、各種の取り組みや目標等を定めている。

千葉県においては、「千葉県環境基本計画」（平成20年）を定める一方、循環型社会形成に向けて、「ちば21ごみゼロプラン」（第二次千葉県のごみの減量化と再資源化を進める基本方針）を定め、千葉県として目指すべき循環型社会のあり方を示している。

本市では、「第2期館山市基本計画」（平成18年3月策定）において、本市が目指す都市像を「輝く人・美しい自然 元気なまち館山」としており、この中で「廃棄物対策」として、「ごみの減量化、リサイクルの推進」、「清掃センター及び最終

処分場の適正な維持管理」及び「広域的なごみ処理施設の建設推進」をあげている。
 このような背景から、本市では一般廃棄物処理に関して必要な施策を推進するための総合的かつ中長期的な計画として、「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（以下「本計画」という。）を策定し、循環型社会の実現を目指す。

2 計画の位置づけ

廃棄物処理法第6条第1項において、「市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画を定めなければならない。」としている。また、策定にあたっては、「地方自治法（昭和22年法律第67号）の基本構想に即して定めるものとする。」（同条第3項）、「関係を有する他の市町村の一般廃棄物処理計画と調和を保つよう努めなければならない。」（同条第4項）としている。

さらに、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則（昭和46年厚生省令第35号）第1条の3では、「一般廃棄物処理計画には、一般廃棄物の処理に関する基本的な事項について定める基本計画及び基本計画の実施のために必要な各年度の事業について定める実施計画により、定めるものとする。」としている。

以上に基づき、本計画を策定するものである。

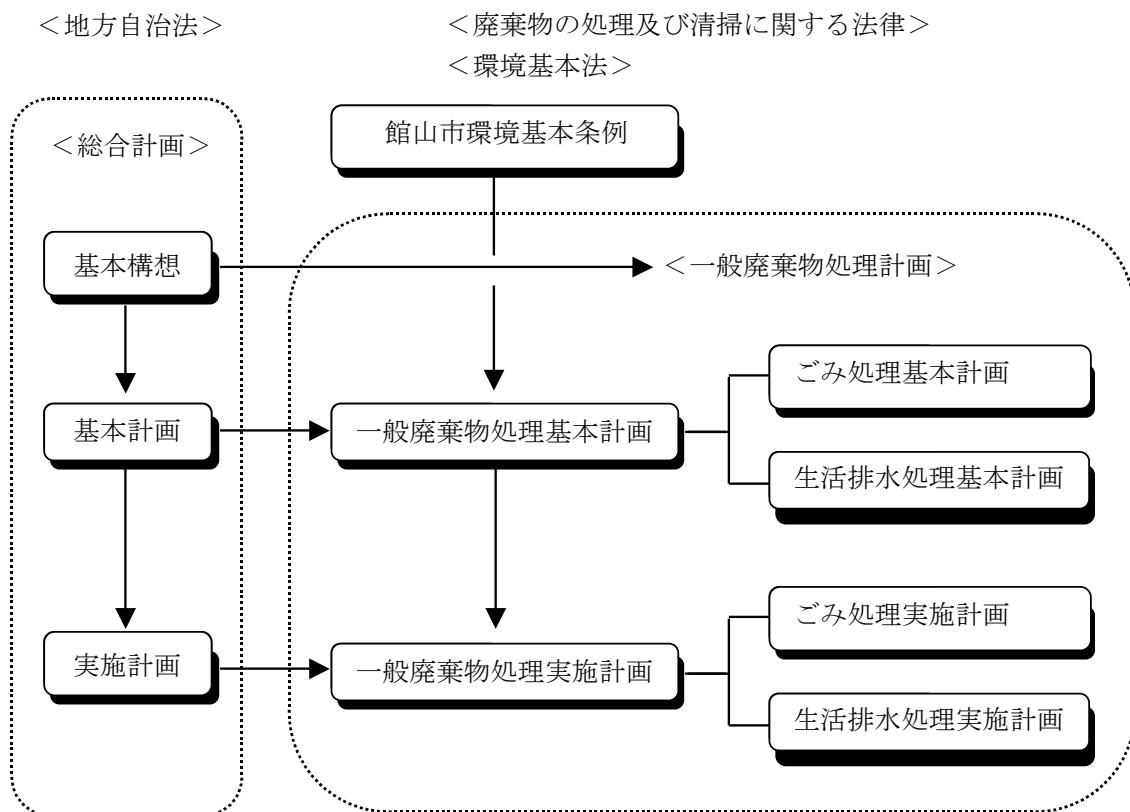


図 1-1 一般廃棄物処理基本計画の位置づけ

3 計画対象区域

本計画の対象区域（計画処理区域）は、館山市全域とする。

4 計画期間

ごみ処理基本計画策定指針では、計画目標年度は計画策定時より 10～15 年度程度とされている。

したがって、本計画は平成 23 年度を初年度とし、15 年後の平成 37 年度を計画目標年度とする。

なお、計画は概ね 5 年ごとに見直しを行うこととする。

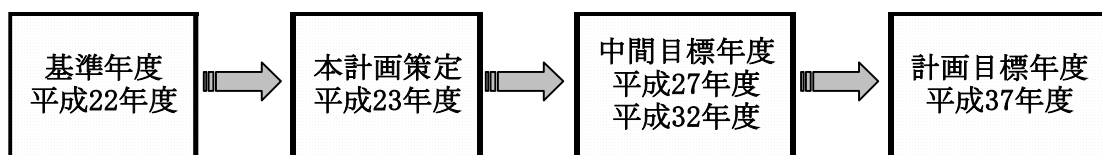
また、社会経済情勢や廃棄物・リサイクルに関する法律の整備、施設整備事業の進捗状況など、必要に応じて、計画期間内であっても計画の見直しを行うものとする。

本計画の計画目標年度

ごみ処理基本計画 平成 37 年度
(中間目標年度 平成 27 年度及び平成 32 年度)

なお、本計画の基準年度は、平成 22 年度とする。

そのため、本計画では中間目標年度及び目標年度における減量化、資源化等の計画目標数値は、平成 22 年度を基準とした割合を用いる。



第2章 地域の概況

1 館山市の位置及び沿革

本市は、千葉県の南部に位置し、東及び北は南房総市と境を接し、西から南にかけては東京湾から、太平洋に面している。

本市の年間平均気温は 16℃以上で、温暖な気候に恵まれ、1 月にはポピーやストック、菜の花が咲き乱れ、花畑は満開になる「花のまち」である。また、31.5 キロの海岸線を持ち、マリンスポーツのメッカとして、夏の海水浴場として、さらには、サンゴの北限ともいわれる美しい海中の世界を持つ「海のまち」でもある。緑豊かな本市は、県立館山野鳥の森が「森林浴の森 100 選」、平砂浦海岸付近は「白砂青松百選」「日本の道 100 選」にも選ばれている。また中世の頃には、戦国武将里見氏がこの地を治めていた。曲亭馬琴作の「南総里見八犬伝」の舞台になったこの地には、今でも里見氏の史跡の数々や八犬伝のロマンが香る史跡が残されている。住んでよし、訪れてよし、館山は魅力あふれるまちを目指している。

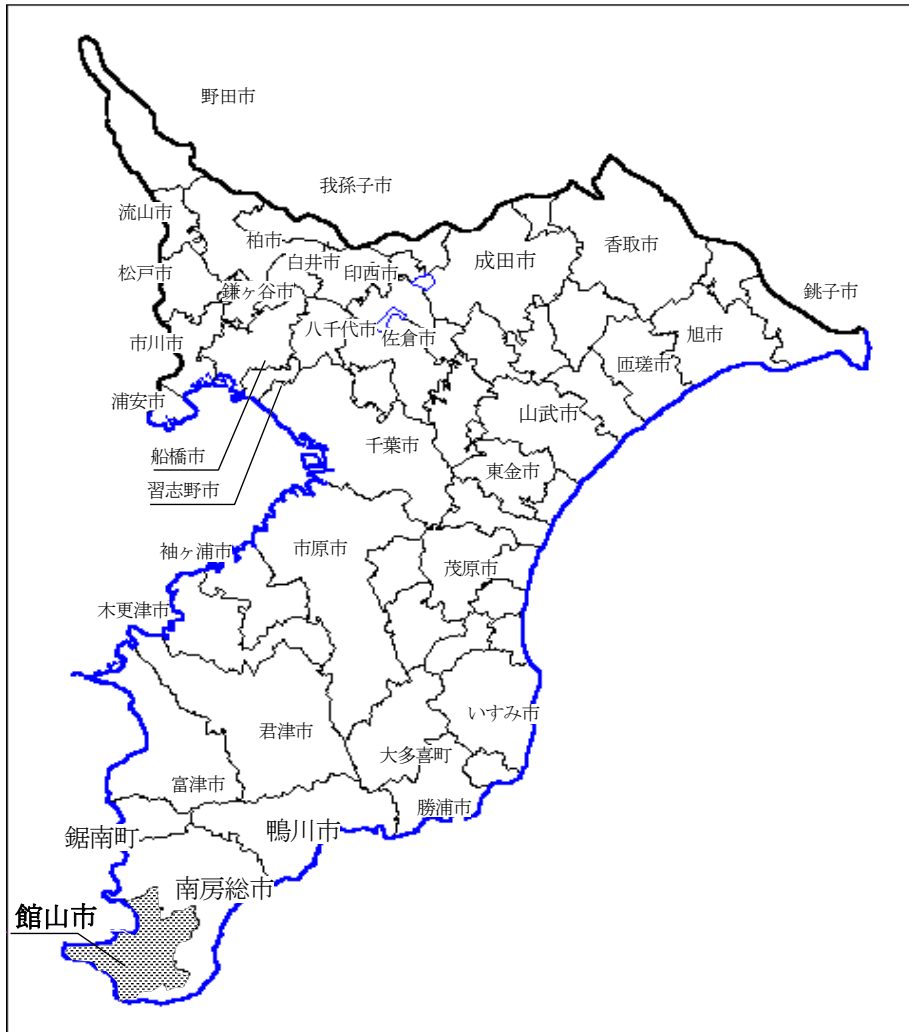


図 2-1 千葉県に於ける本市の位置

本市の位置と面積を表 2-1 に示す。

表 2-1 本市の位置と面積

位 置		広 ぼう (km)		海岸線	総面積
東 経	北 緯	東 西	南 北	km	k m ²
東経 139 度 52 分	北緯 34 度 59 分	17	16	31.5	110.21

(出典：館山市統計書)

2 人口及び世帯数の推移

過去 10 年間の人口及び世帯数の推移を表 2-2 及びグラフ 2-1 に示す。

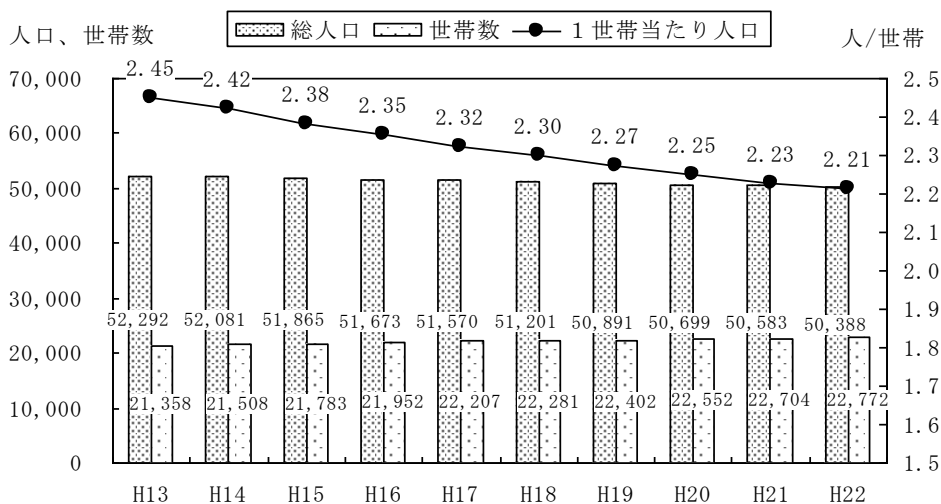
本市の人口は、減少傾向にあるが、世帯数は増加傾向にあるため、1 世帯あたりの人口は、減少しつつある。

表 2-2 人口及び世帯数の推移 (各年度 3 月 31 日人口)

年度	住民基本台帳 (A)	外国人登録人口 (B)	総人口 (A+B)	世帯数	1 世帯当たり人口
	人	人	人	世帯	人/世帯
平成13年度	51,733	559	52,292	21,358	2.45
平成14年度	51,511	570	52,081	21,508	2.42
平成15年度	51,188	677	51,865	21,783	2.38
平成16年度	51,074	599	51,673	21,952	2.35
平成17年度	51,023	547	51,570	22,207	2.32
平成18年度	50,744	457	51,201	22,281	2.30
平成19年度	50,461	430	50,891	22,402	2.27
平成20年度	50,275	424	50,699	22,552	2.25
平成21年度	50,177	406	50,583	22,704	2.23
平成22年度	49,971	417	50,388	22,772	2.21

注 1) 数値は、住民基本台帳人口と外国人登録人口の合算値。(出典：館山市統計書)

グラフ 2-1 人口及び世帯数の推移



3 将来人口の予測

本市の将来人口の予測をトレンド法(注)で行った。その結果を表 2-3 及びグラフ 2-2 に示す。

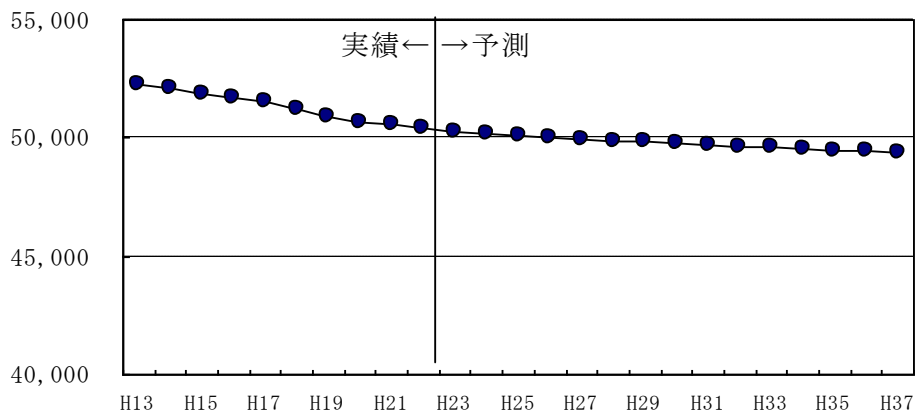
本市の人口は、漸減傾向ではあるが、最近は、やや落ち着いている。そのため、予測は相関係数は低いが、べき曲線の減少が、平成 23 年度から続くものとした。この結果、平成 37 年度に 49,382 人となる。

表 2-3 将来人口予測結果 (単位：人)

年度	人口	年度	人口	年度	人口	年度	人口	年度	人口
H13	52,292	H18	51,201	H23	50,292	H28	49,897	H33	49,590
H14	52,081	H19	50,891	H24	50,203	H29	49,830	H34	49,535
H15	51,865	H20	50,699	H25	50,120	H30	49,766	H35	49,482
H16	51,673	H21	50,583	H26	50,042	H31	49,705	H36	49,432
H17	51,570	H22	50,388	H27	49,968	H32	49,646	H37	49,382

注) 各年度 3 月 31 日現在の実績値及び予測値を示す。

グラフ 2-2 本市の将来人口予測結果 (単位：人)



計画目標年度の人口は、次のとおりとし、計画収集人口も同様の人口とする。

平成 37 年度 49,382 人 (本計画目標年度)

(注)トレンド法とは、過去の実績から 1 次傾向線、2 次傾向線、1 次指数曲線、べき曲線及びロジスティック曲線を用いて将来の値を予測し、相関係数が上位または、過去の傾向に最も整合した曲線を選び、その結果を予測値とする方法である。

なお、第 4 章で行うごみ量の将来予測もこの方法で行っている。

4 産業別人口

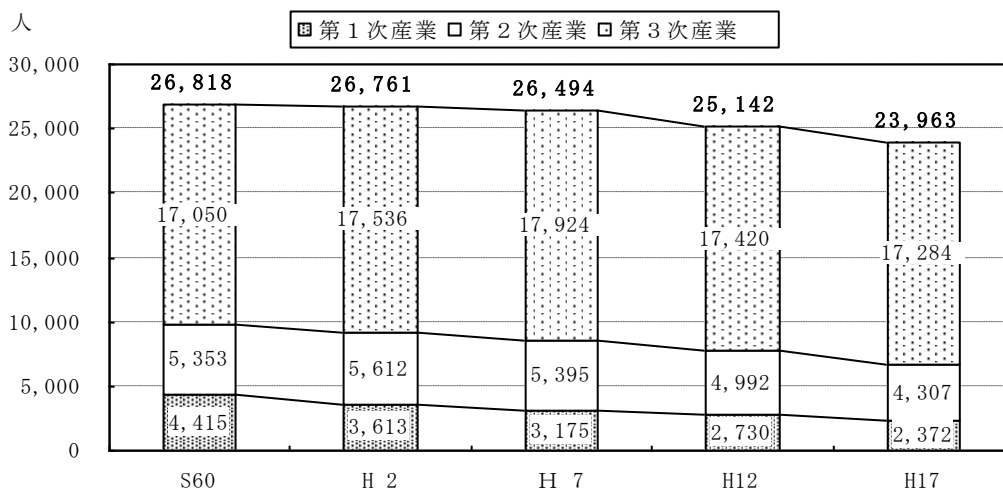
国勢調査年における産業別就業人口の推移を表 2-4 に示す。産業別では、第 3 次産業が年々増加を続けており、平成 17 年度で全体の約 72.1%を占めている。

表 2-4 産業別就業人口の推移 (単位：人)

産業分類	昭和60年	平成 2年	平成 7年	平成12年	平成17年
総数	26,818	26,761	26,494	25,142	23,963
第一次産業	4,415	3,613	3,175	2,730	2,372
第二次産業	5,353	5,612	5,395	4,992	4,307
第三次産業	17,050	17,536	17,924	17,420	17,284

(出典：館山市統計書)

グラフ 2-3 産業別就業人口の推移



5 交通

本市の交通の状況は、国道 127 号、128 号及び 410 号が本市の幹線道路としての機能を有している。また、北条バイパスが完成し、127 号線と共に大きな役割を果たすと共に、東関東自動車道館山線も全線開通し、千葉市、東京へのアクセス時間は、大幅に短縮された。

また、鉄道は、JR 内房線が通り、市内には館山駅、那古船形駅及び九重駅がある。

6 観光

本市には、文化財が多くまた、表 2-5 に示すように観光拠点も多い。さらに気候が温暖で交通の便が良いため、表 2-6 に示すように年間の観光客数は、増加している。

表 2-5 本市の観光の拠点

名 称	所 在 地	名 称	所 在 地
崖の観音(大福寺)	船形835	鏡ヶ浦	
沖ノ島公園	館山	海中観光船たてやま号	波左間漁港
城山公園	館山362	観光定置網	坂田漁港
那古寺	那古1125	館山ファミリーパーク	布沼1210
安房神社	大神宮589	観光いちご園	館野・豊房
鶴谷八幡宮	八幡68	常楽山萬徳寺	洲宮1571
海の駅 伊戸だいぼ工房	伊戸963-1	館山野鳥の森	大神宮553
館山市立博物館	館山351-2	赤山地下壕跡	宮城192-2
洲崎灯台	洲崎1043	ウミホテル	北条海岸
道の駅 南房パラダイス	藤原1495		

(出典：館山市統計書)

表 2-6 本市の年別観光客数 (単位：千人)

	H17	H18	H19	H20	H21
総 数	1,551	1,637	1,758	1,763	1,780
日帰り客	1,071	1,197	1,286	1,324	1,336
宿泊客	480	440	472	439	444

(出典：館山市統計書)

7 土地利用

平成 18 年から平成 22 年の、各年 1 月 1 日現在の本市の土地利用状況を表 2-7 に示す。

表 2-7 土地利用状況 (単位：ha)

年次	総数	田	畑	宅地	山林	牧場	原野	雑種地
H18	6,279	1,512	873	990	2,333	4	267	300
H19	6,281	1,509	872	1,005	2,334	4	266	291
H20	6,284	1,500	870	1,015	2,334	4	265	296
H21	6,286	1,495	870	1,023	2,334	4	265	295
H22	6,289	1,493	869	1,025	2,339	4	265	294

(出典：館山市統計書)